

科目名	漢文学	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	奈良 行博				
クラス名					

授業目的と到達目標

中国の古代漢字で書かれた文章について、その読解力を養い、その思想や文学がもつ味わいの深さを知る。初めて学ぶ学生には文法の基礎を、学習経験のある学生にはより深い味わいの目が養えるようにしたい。

授業概要

【対面授業】受講学生が多いので個人的なレッスンは行えないが、基礎文法をおさらいしながら、漢文表現の簡潔さと内容の深遠さを味わえるように講読と解説を加える。漢字の意味や作品の歴史的背景など、面白みの発掘の仕方を語っていききたい。講義の中に適宜、中国の歴史や文化を紹介するビデオ鑑賞の時間を組み入れる。

準備学修(予習・復習)・受講上の注意

単に丸暗記するのではなく、自分で文章読解を試みて、漢字の配列法則を分析しようとする事。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
学期末に行う理解度確認筆記試験	60
授業内レポート	30
宿題提出	10

教科書

教科書1	プリントを使用		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献

参考書名1	講義の中で紹介する		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	

参考 URL

特記事項

教員実務経験

中国の民族宗教である「道教」の研究を続けて 30 数年。現地の民俗、生活文化に親しみ、馴染んだ経験。博士論文執筆のために読み込んだ文献の多様性。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス(受講心得など)
2	漢文の文法① 返り点の意味
3	漢文の文法② 主語と述語
4	漢文の文法③ 修飾語と被修飾語
5	漢文の文法④ 動詞と目的語
6	漢文の文法⑤ 打消しの形
7	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる①。漢字の成り立ち。
8	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる②。漢字の偏と旁。
9	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる③。漢字の歴史①
10	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる④。漢字の歴史②
11	漢文の名言名句を学びながら文法の力を確かめる⑤。漢字の書体
12	漢詩から音の美しさを知る。漢字の音韻。
13	漢詩から句のリズムを味わう。漢字を作る。
14	漢文の故事を味わう。
15	前期講義の振り返りとまとめ。理解度確認の筆記試験。後期講義の概要説明と授業アンケート。
16	前期内容のおさらいと確認。前期末に行った確認試験の結果について解説と講評。
17	故事から思想を学ぶ① 『韓非子』の文
18	故事から思想を学ぶ② 『戦国策』の文
19	故事から思想を学ぶ③ 『孟子』の文
20	故事から思想を学ぶ④ 『列子』の文
21	故事から思想を学ぶ⑤ 『淮南子』の文
22	『論語』の味わい① 孔子の人と思想
23	『論語』の味わい② 孔子と彼の弟子達
24	『論語』の味わい③ 名場面を味わう
25	『老子』の味わいと「道」
26	『老子』と『荘子』
27	『荘子』の文学性
28	『荀子』と礼の思想
29	漢詩にみえる中国思想
30	後期講義の内容を振り返り、全体をまとめる。理解度確認の筆記試験。

科目名	日本語の歴史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	古江 尚美				
クラス名	日本語の歴史				
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、この授業により世界中の日本を意識し、国語科教員など社会的責任を果たせる人材を育成することを目的とします。日本語の歴史を学ぶことによって、我々が普段何気なく使っている母語、日本語に対する理解を深め、より洗練された日本語を使いこなせるようになるでしょう。</p>					
授業概要					
<p>文字史・音韻史・文法史...と各分野別に日本語の歴史の変遷を追っていきます。 教科書には豊富な資料や詳しい年表がついているので、それらを参照しながら、PowerPointで授業を進めます。 毎回、その日の授業の理解度を測る出席確認テストを実施し、翌週返却、フィードバックします。 各分野が終わったら分野別小テストを実施します。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>毎回、出席確認テストを実施します。その日の授業を聞いていれば、簡単に解ける問題です。 翌週、採点したものを返却するので、できなかったところを再確認すること。 また、1つの分野が終わったら、分野別試験を実施します。暗記よりも理解重視なので、試験は全て(電子機器以外)持ち込み可です。資料など普段から整理しておくことが重要です。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
分野別試験			25		
出席テスト			25		
学年末試験			50		
教科書					
教科書1	『新訂 国語史要説』				
出版社名	大日本図書	著者名	金田弘・宮腰賢		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>大阪大学日本語日本文化教育センター(CJLC)や大阪観光大学などで、合わせて20年ほど留学生に日本語を教えています。日本語非母語話者に対する日本語教育と母語話者に対する国語教育の両方の知識と経験を活かして、幅広い知識を有し、日本語を多面的に見ることのできる国語教師を育成します。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	日本語の歴史:授業の進め方・時代区分・分野		
2	日本語の文字資料・神代文字		
3	文字史 1. 上代 1 漢字の伝来・利用		
4	文字史 2. 上代 2 さまざまな文体		
5	文字史 3. 上代 3 万葉集の用字		
6	文字史 4. 中古 仮名の歴史		
7	文字史 5. 総まとめ、上代特殊仮名遣い		
8	音韻史 1. 上代の音節数、文字史小テスト		
9	文字史 6. 小テスト返却、文字史総括		
10	音韻史 2. 清音の音節数の変遷 中古以降		
11	音韻史 3. 上代の音節結合上の特徴		
12	音韻史 4. 中古の音韻 音便の発生		
13	音韻史 5. 中世 長音の発生		
14	音韻史 6. 近世以降		
15	音韻史 7. 総まとめ、音韻史小テスト		
16	音韻史 8. 小テスト返却、音韻史総括		
17	文法史 1. 動詞の活用 1 上代		
18	文法史 2. 動詞の活用 2 中古		
19	文法史 3. 動詞の活用 3 中世		
20	文法史 4. 形容詞の活用 1		
21	文法史 5. 形容詞の活用 2		
22	文法史 6. 形容詞の活用 3		
23	文法史 7. 形容動詞・助動詞の活用		
24	文法史 8. 可能表現の変遷 1		
25	文法史 9. 可能表現の変遷 2		
26	敬語史 1. 上代		
27	敬語史 2. 中古		
28	敬語史 3 中世～現代、総まとめ		
29	まとめ・総復習・学年末試験		

科目名	日本語の文法	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	古江 尚美				
クラス名	日本語の文法				
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、この授業により世界の中の日本を意識し、国語科教員など社会的責任を果たせる人材を育成することを目的とします。いつも無意識に使っている日本語の理解を深めるとともに、視野を広げ、中高生や日本語を第2言語として学ぶ人たちに日本語を教えることができるようになることが最終目標です。</p>					
授業概要					
<p>高校までに習った学校文法を確認し、さらに非母語話者に対する日本語教育で用いられる日本語文法も並行して学ぶことによって、日本語の構造についての理解を深めていきます。問題を解きながら、日本語を客観的に捉える練習をします。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>講義を聞くだけでなく、各自問題を考え、解きながら日本語文法を身につけていきます。間違えることを恐れず、積極的に授業に参加してください。毎回、授業の最後に出席確認テストを実施します。授業で学んだことが理解できているか、自ら確認してください。翌週、採点したものを返却するので、できなかったところを再確認すること。また、4回小テストを実施します。暗記よりも理解重視なので、試験は全て(電子機器以外)持ち込み可です。資料など普段から整理し復習しておくことが重要です。小テストも返却して説明しますから、学年末の確認テストでは、同じところを間違わないように復習してください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末 確認テスト			50		
小テスト			25		
出席テスト			25		
教科書					
教科書1	『国語教師が知っておきたい日本語文法』				
出版社名	くろしお出版	著者名	山田敏弘		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>大阪大学日本語日本文化教育センター(CJLC)や大阪観光大学などで、合わせて20年以上、留学生に日本語を教えています。日本語非母語話者に対する日本語教育と母語話者に対する国語教育は、似て非なるものです。双方の知識と経験を活かして、幅広い知識を有し、日本語を多面的に見ることのできる国語教師を育成します。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の進め方、文法とは何か、国文法(学校文法)と日本語文法		
2	§1.品詞分類		
3	基本文型		
4	§2.用言 活用 1		
5	§2.用言 活用 2		
6	§1.2.復習 品詞・活用 小テスト		
7	§3.文の組み立て1		
8	§3.分の組み立て2		
9	§4.助詞の分類、格助詞		
10	§5.副助詞		
11	§6.接続助詞 1		
12	§6.接続助詞 2		
13	§4.~6 復習 助詞小テスト		
14	§7.連用修飾		
15	§7.連体修飾		
16	§3.7.文の組み立て、修飾語 復習 小テスト		
17	§8.助動詞(1)受身		
18	§8.助動詞(1)使役		
19	§8.助動詞(1)可能		
20	§9.助動詞(2)否定		
21	§9.助動詞(2)時間「た」		
22	§9.助動詞(2)「~ている」		
23	§10.助動詞(3)断定		
24	§10.助動詞(3)推量		
25	§8.9.10.助動詞 小テスト §11.助動詞と似た働きの形式(1)		
26	§12.助動詞と似た働きの形式(2)		
27	§13.敬語		

28	総まとめ、復習
29	総まとめ 学年末確認テスト
30	試験返却 説明 総括

科目名	文芸の基礎 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2026 年度 前期	形態	講義		
教員名	福井 慎二				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある小説家・国語科教員などの専門知識を身につける。まず文学の基礎として個性・私を描くという日本近代文学の常識を考えるために、個性・私を描くジャンルの代表として私小説を取り上げ、虚構と事実、作者と主人公の関係、メタフィクションについて理解するとともに実践力を養うことを目的とする。生成AIによって問われる創作のあり方を考えられるようにすることを目的とする。</p> <p>またキャリア教育として就職活動の流れを確認し、業界研究として作家・編集者・新聞記者などの講義を行なう。安全で健全な生活を送るために防犯教室を開く。</p>					
授業概要					
<p>文芸の基礎には3つの側面がある。1つ目は初年次教育として、社会人として安全に生活し作家としての視野を広げるための防犯教室であり、より理解を進めるために講義内容に基づいた犯罪小説のショートストーリーを提出してもらう。2つ目はキャリア教育として就職活動の流れの確認と業界研究として作家・編集者らの特別講義を行なう。3つ目が文学教育だ。太宰治を大正時代からの私小説の歴史の中に位置づけながら前衛文学性を確認する。現代の私小説として芥川賞作家の西村賢太、近代文学の常識を否定し挑発する円城塔の理系的な前衛文学を取り上げ、個性・私を描くことを考える。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>防犯教室では闇バイトを取り上げるので予め調べて小説化する上での疑問点を見つけ、講師に積極的に質問できるように1～2時間の準備をする。太宰治の作品は読むのに1～数時間かかり、西村賢太・円城塔は数時間かかる。どんな点が新しいのか考えて読むようにする。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度			20		
レポート			60		
犯罪小説(ショートストーリー)			10		
リアクションペーパー(特別講義など)			10		
教科書					
教科書1	授業中にプリントを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
太宰治の作品は著作権が消滅しているので「青空文庫」のHPで無料でダウンロード可能。西村賢太・円城塔の作品は手持ちの本や市町村立図書館から借りてください。			
教員実務経験			
中学校国語科臨時講師(期限付き常勤講師)の教員が、中学校国語科授業の経験を生かして、個性・私を描くという日本近代文学の常識について私小説を通じて学ばせる。 リクルート講師によるライフプラン・セミナーやベネッセ講師によるGPS - Academic活用ガイダンス、富田林警察署生活安全課警部による防犯教室を通じて、充実し安全な学生生活を送られるようにする。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1ガイダンス・大阪芸術大学の歴史と建学の精神・太宰治の伝記 大阪芸術大学の歴史と建学の精神を知ること学習のあり方を考える。太宰の伝記を確認することで、作品化するに足る実生活の経験と当時の文学史の流れに沿った文筆活動をしていることが明らかになる。		
2	2『葉』の前衛性 第一作品集『晩年』巻頭の『葉』は36の習作の断章とアフオリズム・断片を配列した前衛的作品であり、各断章・断片のつながりを見る。		
3	3一年生からキャリアを考える(1)【リアクションペーパー】 就職活動の流れの確認と一年生のうちにすべきことを学ぶ。		
4	4文芸生の業界研究①【文芸特講Ⅲと合同授業】【リアクションペーパー】 現役作家の特別講義でデビューまでの苦労話や在学中にやっておくべきことを聴く。		
5	5私小説の思想と構造 大正末から昭和初年の私小説論争を通じて私小説の捉え方の枠組を整理し、具体的な作品によって私小説の表現構造の特徴を確認することで、太宰がそれらを継承・発展させていることが明らかになる。		
6	6防犯教室(闇バイト)～犯罪小説の誘惑【犯罪小説のプロット作成】【リアクションペーパー】 闇バイトの手口と対策・注意点を学び、犯人又は被害者を主人公とし、闇バイトの手口と被害者の対応を描いた犯罪小説の粗筋を書くことで、知識の定着と作家としての視野を広げるのに役立つ。		
7	7『道化の華』のメタフィクション 昭和10年代の文学状況を踏まえてメタフィクションの持つ意味を確認し、高見順・石川淳らのメタフィクションの作品群を紹介する。初期太宰文学を代表する『道化の華』のメタフィクションの独創性を確認する。		
8	8GPS - Academic活用ガイダンス【リアクションペーパー】【犯罪小説のプロット提出期限】 GPS - Academicの個人結果レポートの見方と就職活動への生かし方を学ぶ。		
9	9『猿面冠者』の入れ子構造【犯罪小説のショートストーリー提出期限】 太宰の『猿面冠者』もメタフィクションだが、入れ子構造の扱いの独特さを牧野信一の作品と比較して明らかにする。		
10	10『女の決闘』 『女の決闘』のメタフィクション性を典拠としたオイレンブルクや他の決闘和扱った作品と比較して明らかにする。		

11	11 西村賢太の私小説 現代の私小説として芥川賞作家西村賢太の文体や私小説らしさを確認する。
12	12 西村賢太『苦役列車』 西村の芥川賞受賞作『苦役列車』の特徴と問題点を確認し、山下敦弘監督の映画を参照する。
13	13 文芸生の業界研究②【文芸特講Ⅲと合同授業】【リアクションペーパー】 現役編集者の特別講義で就職までの苦労話や在学中にやっておくべきことを聴く。
14	14 円城塔 近代文学の常識の否定 芥川賞作家円城塔は作者の個性を否定して「小説製造機械になりたい」と公言し、個性・「私」を描くという近代文学の常識を否定し、生成AIによって小説の創作が可能となった21世紀の文学のあり方を先取りしている。芥川賞の選評を通じて円城塔の考え・作品に対する賛否を確認する。個性を否定しているのに円城塔の文体を確認出来る矛盾がある。
15	15 円城塔の前衛文学 【レポート提出期限】 近代文学の常識だけでなく小説の常識も否定する以上、円城塔の作品が前衛文学となるのは必然的だ。理系的発想に基づく円城の前衛文学ぶりを具体的に確認する。

科目名	文芸の基礎Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 後期	形態	講義		
教員名	福井 慎二				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ディプロマポリシーにある小説家・国語科教員などの専門知識を身につけるために、大阪芸術大学の立地する大阪の文学と風土の理解を深め、自校教育としての側面も持つ。読書会は文学教育としてだけでなく、2年次以降の演習での討論・合評の仕方を学び、またキャリア教育としてグループワークに慣れることを目的とする。作家・編集者・新聞記者などをゲストとする特別講義は、キャリア教育として業界研究を目的とする。防犯教室を通じて安全で健全な生活を送れるようにする。					
授業概要					
大阪の文学と風土について大阪物を取り上げ、映画の視聴で理解を深める。読書会は作品リストの中からビブリアバトルで作品選定し、各班ごとに討論したあと討論内容を報告する。キャリアアップセミナーでは自己分析・職種を知り、SPIを受検する。3年生と合同の特別講義で業界研究する。防犯教室では薬物犯罪を取り上げ、犯罪小説を執筆して防犯知識の定着を図る。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
読書会の作品を予め読み、グループワークで発表する内容を読書会作業用紙にまとめるのに1時間程度かかる。読書会の議論終了後に感想を読書会作業用紙に記入し提出する。防犯教室では薬物犯罪を取り上げるので予め調べて小説化する上での疑問点を見つけ、講師に積極的に質問できるように1～2時間の準備をする。犯罪小説の執筆は数日かかる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業態度			20		
レポート			50		
犯罪小説(ショートストーリー)			10		
リアクションペーパー(特別講義など)			10		
読書会作業用紙			10		
教科書					
教科書1	授業でプリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2	ポケットアンソロジー				
出版社名	田畑書店	著者名	泉鏡花など		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1ガイダンス・読書会のルール・大阪の文学と風土① 読書会のルール・グループワークの仕方を説明する。現代文学史における大阪の文学の果たす役割を坂口安吾の評論を中心に捉える。		
2	2ビブリオバトル 読書会のテキストをリストの中からビブリオバトル・投票で選定する。		
3	3特別講義【リアクションペーパー提出】 3年生との合同の特別講義で業界研究する。		
4	4キャリアアップセミナー①【リアクションペーパー提出】 ライフプランを設計する上で自己理解を深める。		
5	5大阪の文学と風土② 織田作之助『夫婦善哉』1 大阪物の代表として織田作之助の『夫婦善哉』を取り上げ、食通小説の観点から捉える。		
6	6防犯教室 【リアクションペーパー提出】 薬物の危険性を知り、防犯知識を定着させるために高校生・大学生を対象とし薬物犯罪を扱ったショートストーリーを作成する。		
7	7大阪の文学と風土③ 織田作之助『夫婦善哉』2 織田作之助の『夫婦善哉』の映画を視聴して言語表現・映像表現や解釈の違いを理解する。		
8	8キャリアアップセミナー②(曜日変更に注意) SPIの説明後受検する。		
9	9読書会【読書会作業用紙提出】 明治～昭和文学のテキストを予め読んで読書会作業用紙に意見などを記入して読書会に参加し、司会・書記などの役割を輪番制で果たしグループワークに慣れる。討論終了後読書会作業用紙に読書会の感想を記し提出する。各班ごとに討論内容を報告する。		
10	10読書会【読書会作業用紙提出】 明治～昭和文学のテキストを予め読んで読書会作業用紙に意見などを記入して読書会に参加し、司会・書記などの役割を輪番制で果たしグループワークに慣れる。討論終了後読書会作業用紙に読書会の感想を記し提出する。各班ごとに討論内容を報告する。		
11	11読書会【読書会作業用紙提出】 明治～昭和文学のテキストを予め読んで読書会作業用紙に意見などを記入して読書会に参加し、司会・書記などの役割を輪番制で果たしグループワークに慣れる。討論終了後読書会作業用紙に読書会の感想を記し提出する。各班ごとに討論内容を報告する。		
12	12特別講義【リアクションペーパー提出】 3年生との合同の特別講義で業界研究する。		
13	13読書会【読書会作業用紙提出】 明治～昭和文学のテキストを予め読んで読書会作業用紙に意見などを記入して読書会に参加し、司会・書記などの役割を輪番制で果たしグループワークに慣れる。討論終了後読書会作業用紙に読書会の感想を記し提出する。各班ごとに討論内容を報告する。		

14	<p>14読書会【読書会作業用紙提出】 明治～昭和文学のテキストを予め読んで読書会作業用紙に意見などを記入して読書会に参加し、司会・書記などの役割を輪番制で果たしグループワークに慣れる。討論終了後読書会作業用紙に読書会の感想を記し提出する。各班ごとに討論内容を報告する。</p>
15	<p>15教員発表会【リアクションペーパー提出】 文芸学科の教員の研究発表を聴く。</p>

科目名	日本文学の歴史 I	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	藪 葉子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
『枕草子』『源氏物語』などの代表的な日本の古典文学に触れることを通して、その時代に生きた人々の心に触れ、古典文学に対する関心を深めるとともに、古典は現代の我々にとっても人生の糧となるものであることを認識する。					
授業概要					
対面授業この授業では、特に多彩な作品が見られる平安時代の作品を中心に取り上げていく。『源氏物語』に関しては他の作品より時間をかけて扱い、文学史上における『源氏物語』前後との関係についても考えていきたい。「国宝源氏物語絵巻」などにも触れる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
次回の講義テーマを予告するので、それに関する予習をすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(小レポートの提出など)			30		
前期末レポート			35		
後期末レポート			35		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業で扱う作品の概説。
2	『竹取物語』に見える話型について(1)
3	『竹取物語』に見える話型について(2)
4	『源氏物語』の『竹取物語』享受について。
5	『枕草子』の文体について(1)
6	『枕草子』の文体について(2)
7	『枕草子』の文体について(3)
8	『源氏物語』の文体について(1)
9	『源氏物語』の文体について(2)
10	『源氏物語』の文体について(3)
11	『源氏物語』の文体について(4)
12	国宝「源氏物語絵巻」について(1)
13	国宝「源氏物語絵巻」について(2)
14	女流日記文学について。
15	前期授業のまとめ。
16	現存する古典文学作品が抱える問題について。
17	『源氏物語』夕顔巻。 夕顔死去の前夜の場面を読む(1)
18	『源氏物語』夕顔巻。 夕顔死去の前夜の場面を読む(2)
19	『源氏物語』若紫巻。 北山の垣間見の場面を読む(1)
20	『源氏物語』若紫巻。 北山の垣間見の場面を読む(2)
21	『源氏物語』紅葉賀巻。 藤壺の宮の皇子出産の場面を読む(1)
22	『源氏物語』紅葉賀巻。 藤壺の宮の皇子出産の場面を読む(2)
23	『源氏物語』葵巻。 車争いの場面を読む(1)
24	『源氏物語』葵巻。 車争いの場面を読む(2)
25	『源氏物語』賢木巻。 野々宮の別れの場面を読む(1)
26	『源氏物語』賢木巻。 野々宮の別れの場面を読む(2)
27	『源氏物語』須磨巻。 光源氏の須磨蟄居の場面を読む。

28	『源氏物語』薄雲巻。 明石の君の母子別れの場面を読む(1)
29	『源氏物語』薄雲巻。 明石の君の母子別れの場面を読む(2)
30	後期授業のまとめ。

科目名	日本文学の歴史Ⅱ	年次	1	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	古江 尚美				
クラス名	中世文学				
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神の国際的視野に立っての展開に基づき、この授業により世界の中の日本を意識し、国語科教員など社会的責任を果たせる人材を育成することを目的とします。</p> <p>政治の実権が貴族から武家に移った中世、文学の担い手も都の貴族から全国の武士、庶民へと広がっていきました。</p> <p>その中で生まれた連歌や軍記物語、能・狂言など中世を代表する文学作品を読んで、中世という時代を感じ、当時生きた人々の感性に触れます。そうすることによって、現代の日本人や日本文化への理解も深まります。日本を深く知ることは、同時に世界的視野が広がることにつながります。</p>					
授業概要					
中世文学の概論講義に終わらず、可能な限り個々の作品に触れ、中世を実体験するべく、代表的作品を読んでいます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>毎回、授業の最後に出席確認テストを実施します。</p> <p>授業をただ聞くだけでなく、要点をまとめる問題に答えたり、自分で作品を読んだ感想を書いたりしてください。翌週、採点したものを返却するので、できなかったところを再確認すること。</p> <p>また、前期末と後期末に確認試験を実施します。暗記よりも理解重視なので、試験は全て(電子機器以外)持ち込み可です。資料など普段から整理し復習しておくことが重要です。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
確認テスト(前期・後期)			50		
出席確認テスト			50		
教科書					
教科書1	『日本文学史』古代・中世篇 4・5・6				
出版社名	中公文庫	著者名	ドナルド・キーン		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>大阪大学日本語日本文化教育センター(CJLC)や大阪観光大学などで、合わせて20年ほど留学生に日本語を教えています。日本語非母語話者に対する日本語教育と母語話者に対する国語教育は、似て非なるもので、双方の知識と経験を活かして、幅広い知識を有し、日本語を多面的に見ることのできる国語教師を育成します。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイドンス、ドナルド・キーンについて		
2	中世とは 時代背景		
3	和歌 1 勅撰集『新古今集』		
4	和歌 2 本歌取り		
5	和歌 3 歌合、定数歌		
6	和歌 4 新古今集の歌人たち		
7	連歌 1 連歌の形式		
8	連歌 2 連歌の技巧 連歌式目		
9	連歌 3 『水無瀬三吟』		
10	日記 1 王朝女流日記		
11	日記 2 紀行		
12	随筆 1 『方丈記』		
13	随筆 2 『徒然草』		
14	随筆 3 まとめ		
15	前期の総復習、前期確認テスト		
16	前期確認テスト返却。法語『歎異抄』		
17	御伽草子 1 分類 公家物		
18	御伽草子 2 僧侶物		
19	御伽草子 3 武家物 庶民物		
20	軍記物語 1 『保元物語』『平治物語』		
21	軍記物語 2 『平家物語』		
22	軍記物語 3 『承久記』		
23	軍記物語 4 『太平記』		
24	能 1 観阿弥		
25	能 2 世阿弥		
26	狂言		
27	キリシタン文学 1 キリスト教伝来		
28	キリシタン文学 2 『エソポのハプラス(伊曾保物語)』をローマ字で読む		

29	総まとめ 後期確認テスト
30	試験返却 解説 総復習

科目名	日本文学の歴史Ⅲ	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	福井 慎二				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>ディプロマポリシーにある国語科教員としての専門的知識を身につけるために有名文学作品を取り上げて国語科教員に必要な教養と基礎知識の習得を目指す。前期は文学概念の変遷と言文一致について理解することを目的とする。後期は自然主義・私小説によって制度化された小説概念とその限界について理解することを目的とする。</p> <p>カリキュラムポリシーにある広い専門的視野を切り開くために、文学作品に基づく映画・アニメや初版本にも触れ、文学史の知識の習得と有名文学作品の読破を目標とする。</p>					
授業概要					
表現のあり方の歴史という観点から明治・大正文学史を取り上げ、その文学的問題点と、アニメ、映画を参照しながら個々の作品を見ていく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
有名作品を数多く読むことを目的とし、特記事項に従って各自で作品を入手し授業計画に従って 予め読んでおくこと。『金色夜叉』『破戒』『心』『或る女』『暗夜行路』は長編(文庫本で各 280～550 ページ)で読むのに5～6日、『歌行燈』『蒲団』『春琴抄』『蟹工船』(各 70～130 ページ)は2～3日、それ以外(各 15～47 ページ)は数時間かかる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期・後期のレポート			80		
授業態度			20		
教科書					
教科書1	必要箇所のみプリントを配布する授業で取り上げる殆どの作品の著作権が消滅しているので、国立国会図書館の蔵書検索や「青空文庫」のホームページで無料で閲覧・ダウンロードできる。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
レポート作成には作品を必ず読む必要があり、「暗夜行路」以外は、著作権が切れたため「青空文庫」のホームページで無料でダウンロードして読めます。 あるいは図書館で借りたり、手持ちの本を使ってください。	
教員実務経験	
中学校国語科臨時講師(期限付き常勤講師)の教員が、中学校国語科授業の経験を生かして、日本近代文学史の用語や重要作品について理解を深めさせる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイドランス／川端康成・武者小路実篤・志賀直哉・芥川龍之介・谷崎潤一郎・永井荷風の動画参照 成績評価基準・テキスト・授業目的・授業計画・レポートの書き方を確認し、近代・現代文学史の時期区分を説明する。谷崎・志賀・武者小路・川端・芥川の記録映像を見て近代文学に親しみを持ってもらう。
2	文学概念・小説概念の革命 その1/坪内逍遙『小説真髓』初版本 明治 10 年代の代表的ジャンルの毒婦物・政治小説を取り上げて新しいキャラクター作りと女性の社会進出を関連づける。19 世紀の世界同時進行の文学概念の変化を英語・中国語・日本語で確認し、『小説神髓』の文学史的意義を明らかにする。
3	文学概念・小説概念の革命 その2/ 坪内逍遙『当世書生気質』・二葉亭四迷『浮雲』初版本 『小説神髓』の実践としての『当世書生気質』の問題点と、江戸時代の戯作の特徴を踏まえた上での『浮雲』の試みを確認する。『小説神髓』『当世書生気質』『浮雲』の初版本を紹介し、和装本から洋装本への変化・浮世絵風の挿絵を見て出版文化に触れる。
4	言文一致 明治 33 年の川上音二郎一座パリ公演の録音の自己紹介を聞き、話し言葉は現在と変わらず書き言葉は文法・語彙が異なることから言文一致の必要性を確認し、文学における言文一致の意味づけを行なう。
5	尾崎紅葉『金色夜叉』その1 映画参照・初版本 紅葉を中心とする硯友社の文学史的な位置づけをし、『金色夜叉』の粗筋を確認して貫一・お宮の恋愛観のずれ違いを考察する。
6	尾崎紅葉『金色夜叉』その2 映画参照 『金色夜叉』の初版本、メディアミックスぶりを紹介する。映画が小説の独特さを取り上げず通俗悲劇化していることに触れる。
7	森鷗外『舞姫』 映画参照 鷗外の文学史的な位置づけをし、鷗外文学の重要モチーフを扱った『舞姫』の豊太郎の自意識の変化・自己欺瞞を考察する。
8	悲惨小説 広津柳浪『黒蜥蜴』 悲惨小説の特徴を確認し、その代表の『黒蜥蜴』を取り上げ悲劇の不可避性を見る。テキストは入手困難なのでプリントを配布する。
9	観念小説 泉鏡花『外科室』 映画参照 『外科室』を通じて鏡花の発想の独特さを確認し、鏡花文学の中で異質な観念小説としての『外科室』を位置づける。
10	泉鏡花『歌行燈』 映画参照 歌舞伎の手法を用いた『歌行燈』に取り込まれた能を見て伝統芸能に親しみ、近代以前の文学の遺産を継承した創作法に触れる。

11	樋口一葉『たけくらべ』 アニメ参照 アニメで粗筋を確認し、明治の立志少年とは異なり地縁・親の家業に縛られる子供像を見る。一葉の自筆原稿に基づく真筆本を見て推敲ぶりを確認する。
12	自然の発見 国木田独歩『武蔵野』 志賀重昂『日本風景論』 自然描写が花鳥風月の美意識・日本三景式風景観に基づいた観念的・類型的表現から、写生や『日本風景論』の科学的風景観によって変化し、『武蔵野』の写実的で風景の個性を捉えた表現になったのを確認する。
13	自然主義の理論 その1 近代文学の枠組みを形成した自然主義理論の特徴をゾライズムと比較して明らかにし、事実重視のあまり虚構を否定して作者の実体験に基づき告白形式を採用したことを解説する。 【前期レポート提出日】
14	自然主義の理論 その2 自然主義理論の中核を占める平面描写・一元描写を視点の観点から捉える。
15	自然主義の理論 その3 芸術と実行論争を取り上げて自然主義の限界を確認する。 【前期レポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】
16	ガイダンス・前期レポート返却 UNIPAで返却した前期レポートの採点基準・解答例を公表して、後期の学習の動機づけをする。また後期の授業計画を解説する。
17	島崎藤村『破戒』 映画参照 粗筋と『破戒』の藤村の作品史上の位置づけの問題点を確認し、丑松の告白の自己欺瞞を探る。『破戒』初版本を見て個人著作集の統一デザインの始まりを確認する。
18	田山花袋『蒲団』 TVドラマ参照 『蒲団』に到る花袋文学の変貌を踏まえ、時雄の「恋の保護者」の内実と私小説の先駆性を確認する。
19	夏目漱石『こころ』その1 映画参照漱石の文学史的な位置づけをし教科書教材として一部分のみ掲載されることが多いので粗筋を確認し、先生と学生を中心に考える。
20	夏目漱石『こころ』その2 映画とアニメの比較 『心』の初版本の漱石のデザインを紹介し、『心』の映画・アニメの解釈の違いに触れる。
21	歴史小説 森鷗外『山椒大夫』 映画参照 歴史小説が近代文学に突き付けた問題を文学・歴史概念の変化から明らかにし、説経節と比較しながら『山椒大夫』の歴史離れと歴史其儘の問題を確かめる。
22	谷崎潤一郎『春琴抄』その1 映画参照 『刺青』『痴人の愛』を通じて谷崎の抱えた問題を確認し、代表作『春琴抄』の独特の愛の形を語り手がサディズム・マゾヒズムで捉える独特さを見る。
23	谷崎潤一郎『春琴抄』その2 映画参照・初版本 『春琴抄』の初版本のデザインを見る。映画のアレンジぶりに触れる。
24	白樺派 有島武郎『或る女』 初版本 大正文学の枠組みを作った白樺派の特徴を確認し、『或る女』のファミ・ファタールぶりと葉子の自己矛盾を見る。『或る女』初版本のアンカットの造本に触れる。
25	志賀直哉『暗夜行路』その1 映画参照 『暗夜行路』の粗筋を確認し、謙作の価値判断の矛盾と作者の相対化を見る。
26	志賀直哉『暗夜行路』その2 映画参照 『暗夜行路』の映画の特色に触れる。
27	新感覚派・大正私小説 関東大震災の記録映像参照新感覚派の表現の特徴と私小説の特質を確認する。
28	プロレタリア文学の歴史と理論 プロレタリア文学の歴史を概観し、その理論と課題を確認する。
29	小林多喜二『蟹工船』 映画参照

	『蟹工船』が表現・語りの点でプロレタリア・リアリズムに反しているのを見る。『蟹工船』初版本の伏せ字から検閲ぶりを見る。
30	芥川龍之介『地獄変』 映画参照 芥川が大正文学をどのように代表するか確認した上で『地獄変』の芸術至上主義を見る。 【後期レポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】

科目名	レトリック論	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	福井 慎二				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>文学作品を文体という点から捉えることに慣れ、文章に対する感覚を養い、ひいては創作に役立てられることを目的とする。レポートで奇抜な直喩や有名文学作品のパロディを作成し、レトリックを習得し文体に敏感になることを目標とする。ディプロマポリシーにある作家・国語科教員・ジャーナリストの専門的知識を身につけるためにレトリックの知識を習得し自分だけの個性的な文体を作り、執筆活動に役立つ技術修得と表現力の伸張を目指す。</p>					
授業概要					
<p>日本近・現代文学を中心にした日本語の文体の歴史や、夏目漱石・芥川龍之介・太宰治などの作家の文体の個性をそのパロディやパステーションと比較することで捉える。前期は毎回レトリックを小テストで身につくようにし、宿題として課す提出課題で直喩・隠喩などを作成・描写の練習・視点の使い方を学ぶ。同様に日本語の文体の小テストも行う。後期はライトノベルの文体として呪文・戦闘描写の書き方や夢らしい書き方を取り上げる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>直喩などの表現技法や雅文体などの区別を授業中の小テストで身につけ、間違い箇所を復習し、必ず宿題をやって、直喩・隠喩などを作成・描写や視点の使い方を練習し、日頃から表現技法や文体の特徴を気にしながら文章を読み書く訓練をすること。受講上の注意として小テスト・宿題をおろそかにしてはならない。ほぼ毎週前期に実施の小テストのため復習し、隔週で通年実施する提出課題作成に1時間程度必要。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期・後期のレポート			64		
提出課題(16回)			16		
授業態度			20		
教科書					
教科書1	授業中にプリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
中学校国語科臨時講師(期限付き常勤講師)の教員が、中学校国語科授業の経験を生かして、レトリック・文体の理解を深めさせ、使いこなせるようにする。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1ガイダンス／文体とは何か／レトリック(1)直喩・隠喩 /レトリック作成課題1(直喩) 文体把握には表現技法から作品構造レベルまでの項目があり、表現技法として先ず直喩・隠喩を説明、練習問題を解き次回小テストを行なう。宿題としてレトリック作成課題1を指定期限までにUNIPAのクラスプロフィールの「課題提出」に提出する。
2	文体論の方法 その1(修辞学)／レトリック(2)諷喩・換喩／レトリック小テスト(1) 多様な文体把握の仕方の中から先ず修辞学を取り上げる。直喩・隠喩の小テストを行なう。諷喩・換喩の説明、練習問題を解く。宿題のレトリック作成課題1の学生の解答例を解説する。
3	文体論の方法 その2(文章心理学と計量文献学)／レトリック(3)婉曲語法・迂言法／レトリック小テスト(2)／レトリック作成課題2(隠喩1) 名文・悪文を追究する文章心理学や統計的・数学的処理をし警察の捜査にも利用される計量文献学を紹介し、その問題点を指摘する。婉曲語法・迂言法の説明、練習問題を解く。 【レトリック作成課題2 UNIPA「課題提出」に提出】
4	新聞記事とTVニュース原稿の文体／レトリック(4)撞着語法・列挙法・追加法・反復法／レトリック小テスト(3) 用途に応じた文体・書き方として新聞記事・TVのニュース原稿の文体の相違を見る。撞着語法・列挙法・追加法・反復法の説明をし、表現技法の小テストを行なう。宿題のレトリック作成課題2の学生の解答例を解説する。
5	小説の文体 その1(小説の虚構性と視点)／レトリック(5)対比・交差配語法・くびき語法／レトリック小テスト(4)／TVニュース原稿作成課題 小説の文体の特徴を虚構性・視点・心理描写に見る。対比・交差配語法・省略語法などを説明し、表現技法の小テストを行なう。【TVニュース原稿作成課題の宿題 UNIPA「課題提出」に提出】
6	小説の文体 その2(小説の地の文とシナリオのト書き)／レトリック(6)誇張法・緩叙法／レトリック小テスト(5) 小説の地の文とシナリオのト書きを比較しながらその特徴を確認する。誇張法・緩叙法を説明し、表現技法の小テストを行なう。TVニュース原稿作成課題の宿題の学生の解答例を解説する。
7	小説の文体 その3(説明と描写)／レトリック小テスト(6)／レトリック作成課題3(隠喩2) 小説の描写と説明の違いを説明する。レトリックの小テストを行なう。 【レトリック作成課題3(隠喩2)の宿題をUNIPA「課題提出」に提出】
8	小説の文体 その4(顔の描写)／レトリック小テスト(7)小説の顔の描写を説明する。レトリックの小テストを行なう。宿題のレトリック作成課題3の学生の解答例を解説する。顔の描写の練習問題は12回目の授業で行なう。
9	小説の文体 その5(心理描写)／レトリック作成課題4(迂言法) 小説の心理描写の方法を具体例で確認する。 【レトリック作成課題4(迂言法)の宿題をUNIPA「課題提出」に提出】
10	日本語の文体 その1(漢文体)／<描写>練習課題1(情景)

	ジャンル・用途とは別に文法・句法・語彙の点で捉える日本語の文体の区別があり、まず漢文体を説明する。創作活動上の文体の使い分けに必要な。宿題のレトリック作成課題4の学生の解答例を解説する。 【〈描写〉練習課題1の宿題 UNIPA「課題提出」に提出】
11	日本語の文体 その2(和文体・俗文体)／日本語の文体の小テスト(1) 和文体(雅文体)・俗文体を説明する。日本語の文体の小テストを行なう。宿題の〈描写〉練習課題1の学生の解答例を解説する。
12	日本語の文体 その3(雅俗折衷体・翻訳文体・言文一致体)／日本語の文体の小テスト(2)／〈描写〉練習課題2<顔> 雅俗折衷体(和漢混交文)・翻訳文体・言文一致体の説明をする。日本語の文体の小テストを行なう。 【〈描写〉練習課題2の宿題 UNIPA「課題提出」に提出】
13	芥川龍之介の文体 その1(総論)／日本語の文体の小テスト(3) 創作活動では個性的な自分の文体を作り出すことが重要となる。サンプルとして芥川を取り上げ、表現技法・語り口の特徴と作品の作り方の変化を見る。〈描写〉練習課題2の学生の解答例を解説する。
14	芥川龍之介の文体 その2(切支丹文献のパスティーシュ)／日本語の文体の小テスト(4)／〈視点〉練習課題 『奉教人の死』など芥川の作品には戦国・江戸時代の切支丹文献のパスティーシュであり、その文体模倣ぶりを確かめる。 【〈視点〉練習課題の宿題を UNIPA「課題提出」に提出】
15	芥川龍之介の文体 その3(統合失調症患者患者の手記のパスティーシュ)・人工言語 『河童』は精神病患者の発言の口述筆記の体裁を取り、『歯車』は病的変調が見られるので、統合失調症患者の発言・手記の文体的特徴を見てその模倣ぶりを確認する。〈視点〉練習課題の学生の解答例の解説をする。 【前期レポート提出期限 提出先はUNIPA「課題提出」】
16	ガイダンス・前期レポートについて／パロディの方法／レトリック作成課題5(尻取り文) UNIPAで返却した前期レポートの採点基準・解答例を公表して、後期の学習の動機づけをする。また後期の授業計画を解説する。パロディの仕方をパターンごとに原文とパロディ例を列挙して説明する。 【レトリック作成課題5(尻取り文)の宿題をUNIPA「課題提出」に提出】
17	太宰治の文体 その1(饒舌体) 太宰の文体の特徴は饒舌体にあり、表現技法・語り口の点から個性を確認する。宿題のレトリック作成課題5の学生の解答例を解説する。
18	太宰治の文体 その2(メタフィクション)／〈描写〉練習課題3<性格を示す顔> メタフィクションや物語を破壊する作品構造にも太宰の特徴があり、確認する。 【〈描写〉練習課題3の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
19	太宰治の文体 その3(『走れメロス』のパロディ) 太宰はアフォリズムも個性的で芥川と比較する。『走れメロス』の文体を確認しパロディを紹介する。宿題の〈描写〉練習課題3の学生の解答例を解説する。
20	風景描写の方法／〈描写〉練習課題4<風景> 風景描写の仕方を具体例を通じて説明する。 【〈描写〉練習課題4の宿題 UNIPA「課題提出」に提出】
21	昔話の翻案 芥川・太宰・倉橋由美子 昔話の翻案をしても芥川・太宰らしい発想と文体が一貫していることを確認する。宿題の〈描写〉練習課題4の学生の解答例を解説する。
22	服装描写の方法／〈描写〉練習課題5<服装> 服装描写の仕方を具体例を通じて説明する。 【〈描写〉練習課題5の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
23	夏目漱石の文体 その1(言葉遊びの言語観)

	リアリズム中心の近代文学の中で漱石は言葉遊びをし装飾過剰で滑稽味のある独特な文体を持ち、表現技法・語り口の点から特徴を見る。宿題の〈描写〉練習課題5の学生の解答例を解説する。
24	会話の方法／〈会話〉練習課題シナリオを例にしてセリフの書き方の解説をする。 【〈会話〉練習課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
25	夏目漱石の文体 その2(『坊っちゃん』のパロディ・続編) 『坊っちゃん』のパロディや続編を紹介し、その文体模倣ぶりを確認する。宿題の〈会話〉練習課題の学生の解答例を解説する。
26	ライトノベルの文体 その1(呪文)／〈呪文〉練習問題ライトノベルやファンタジーに必要な呪文として、真言・祝詞・陰陽道の呪文の文体の特徴と自作の仕方を説明する。西洋魔術は儀式魔術しか存在せず、占星術・錬金術・エノク魔術の知識がなければ自作出来ないが、実在の悪魔召喚の呪文などを取り上げて説明する。 【〈呪文〉練習課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
27	夏目漱石の文体 その3(『明暗』) 『明暗』の粗筋・文体の特徴を見る。宿題の〈呪文〉練習課題の学生の解答例を解説する。
28	ライトノベルの文体 その2(戦闘描写①)／〈戦闘描写〉練習問題 ライトノベルやファンタジー・エンターテインメント系小説に必要な戦闘描写として、日本と西欧の剣術を取り上げる。日本の剣術のTVドラマや漫画・小説を比較して書き方を説明する。 【〈戦闘描写〉練習課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
29	夏目漱石の文体 その4(『明暗』の続編・パステーション)／夢の文体／夢の作成課題 『明暗』の完結編2つの粗筋・文体の特徴を見て、続編としてのストーリーや結末の妥当性と文体模倣ぶりを確認する。〈夢〉の文体の特徴を解説する。宿題の〈戦闘描写〉練習課題の学生の解答例を解説する。 【〈夢〉作成課題の宿題 UNIPAの「課題提出」に提出】
30	ライトノベルの文体 その3(戦闘描写②) ライトノベルやエンターテインメント系小説に必要な戦闘描写として、近接格闘技を取り上げる。宿題の〈夢〉作成課題の学生の解答例を解説する。 【後期レポート 提出期限 UNIPAの「課題提出」に提出】

科目名	詩歌の歴史	年次	2	単位数	4
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	藪 葉子、太田 晋介				
クラス名					
授業目的と到達目標					
[前期] 日本近代詩史と個々の作品を鑑賞することで、詩芸術についての知見を深める。 作業を通じて、カリキュラムポリシーにある、文章表現や文芸の基礎の取得をめざす。					
[後期] 和歌における日本語のしぐみを考えていく。					
授業概要					
[前期] 対面授業戦後以降の日本現代詩を読み解くことで、詩芸術についての知見を深め、鑑賞眼を養う。					
[後期] 対面授業上代から中世以前の和歌を取り上げる。特に和歌のこトバを中心とした古代語について説明する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
[前期] 【事前学習】授業でプリント・資料を配布するので、指示した場合、それらを読み込んでくること。 また学期末にレポートの提出をもとめるので、近代詩人の詩集を学期中、最低1冊は通読すること。 【出席などの取り決め】欠席の許容回数は大学が定めた規定に従う(学生便覧参照)。 授業開始後、15分までの入室を「遅刻」とし、それ以降の入室を「欠席」とみなす。遅刻「2」回を欠席「1」回とみなす。 授業中の私語、居眠り、さらに許可した場合を除きインターネットサイトの閲覧を禁じる。これらが守られない場合出席は取り消しをし、違反が続く場合は以降の授業の出席を認めない。					
[後期] 次回の講義テーマを予告するので、それに関する予習をして授業に臨むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
[前期]出席率、授業態度、授業内で課すミニレポートなどから導かれる平常点 ならびに学期末レポートの評点			前期 50 平常点25:学期末レポート 25 (ただし、前期授業の出席回数が、学則に示されている規定回数に満たない者については、レポートを提出した場合もこれを受理しない)		
[後期]期末レポート			後期 50 の内 30%		
[後期]平常点(授業内の発表・小レポートの提出)			後期 50 の内 20%		
教科書					
教科書1	【前期】太田晋介・細見和之・平居謙(共著)、『詩論』草原詩社 annex、2025年、ISBN4911508000 初回授業までに事前購入しておく必要はありません。初回授業で行う教師の説明を聞いた上で購入を決定してください。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書・参考文献	
参考書名1	
出版社名	著者名
参考書名2	
出版社名	著者名
参考書名3	
出版社名	著者名
参考書名4	
出版社名	著者名
参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 詩を読むこと、学ぶことの意義、状況認識としての「修辞的現在」
2	☆以降はあくまで予定。戦後から平成までの日本詩史を学びますが、扱う詩人やテーマは受講者の興味・関心にあわせて適宜変更する可能性があります。 状況認識としての「修辞的現在」: 谷川俊太郎(1)
3	谷川俊太郎(2)
4	谷川俊太郎(3) あるいは「生活」の詩について
5	詩におけるモダニズム—左川ちか
6	詩とイマージュ(1) 吉岡実 あるいはエロス、官能性の主題について
7	詩とイマージュ(2) 大岡信のシュルレアリスム
8	詩の言葉の物質性、音楽性(1) 安東次男
9	詩の言葉の物質性、音楽性(2): 岩田宏、那珂太郎
10	短歌的抒情をめぐって(1) 小野十三郎
11	石原吉郎の詩業(1)
12	石原吉郎の詩業(2)
13	女性詩人たち: 茨木のり子、高良留美子
14	平成詩、ゼロ年代の詩の方へ(1) 杉本真継子
15	平成詩、ゼロ年代の詩の方へ(2) 中尾太一; 前期のまとめ
16	和歌の七五調のリズムについての解説。
17	『万葉集』歌人の歌について(1)
18	『万葉集』歌人の歌について(2)
19	『古今和歌集』歌人の歌について(1)
20	『古今和歌集』歌人の歌について(2)
21	佐竹本「三十六歌仙絵巻」について。

22	平安中期の女流歌人の歌について(1)	
23	平安中期の女流歌人の歌について(2)	
24	『古今和歌集』の歌風について。	
25	『新古今和歌集』の歌風について。	
26	和歌における見立てについて。	
27	文学作品としての和歌集の編纂について。	
28	和歌の散文作品への影響について。	
29	散文作品に見える作中和歌について(1)	
30	散文作品に見える作中和歌について(2)	

科目名	文章表現の基礎	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	青山 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>(前期)文芸学科1年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。</p> <p>(後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。</p> <p>なお、この授業は「1年次に、文章表現や文芸、メディア論の基礎の学修からスタートし、日本および世界各地の文学を幅広く身につけ、一方で創作の準備にもかかる」という、建学の精神を踏まえた文芸学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、特に文章表現の基礎となる技術や知識を学ぶことを目的とするものである。</p>					
授業概要					
<p>(前期)6クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要なアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。</p> <p>(後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(前期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(前期:最終レポート含む)			30		
平常点(後期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(後期)			15		
最終課題(後期)			15		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2026				
出版社名			著者名	大阪芸術大学／ベネッセ iキャリア	
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス(大学における学び):自己紹介・他己紹介		
2	ノートテイキング		
3	メールや手紙の書き方・出し方		
4	図書館の利用(見学、体験)		
5	Word や PowerPoint の使い方		
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)		
7	情報リテラシーについて		
8	人に伝わる文章を書く①		
9	人に伝わる文章を書く②		
10	レポートの書き方①テーマを見つける		
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる		
12	レポートの書き方③口頭発表を行う		
13	レポートの書き方④口頭発表を行う		
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)		
15	本の紹介②と前期のまとめ		
16	後期授業のガイダンス:第1課題の説明・原稿用紙の使い方		
17	第1課題の合評と講評①		
18	第1課題の合評と講評②		
19	第1課題の合評と講評③		
20	第1課題の合評と講評④		
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する		
22	第2課題の合評と講評①		
23	第2課題の合評と講評②		
24	第2課題の合評と講評③		
25	第2課題の合評と講評④		
26	第3課題の合評と講評①		

27	第3課題の合評と講評②	
28	第3課題の合評と講評③	
29	第3課題の合評と講評④	
30	一年間の授業の振り返り	

科目名	文章表現の基礎	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	団野 恵美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>(前期)文芸学科1年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。</p> <p>(後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。</p> <p>なお、この授業は「1年次に、文章表現や文芸、メディア論の基礎の学修からスタートし、日本および世界各地の文学を幅広く身につけ、一方で創作の準備にもかかる」という、建学の精神を踏まえた文芸学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、特に文章表現の基礎となる技術や知識を学ぶことを目的とするものである。</p>					
授業概要					
<p>(前期)6クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要なアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。</p> <p>(後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(前期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(前期:最終レポート含む)			30		
平常点(後期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(後期)			15		
最終課題(後期)			15		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2026				
出版社名			著者名	大阪芸術大学／ベネッセキャリア	
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス(大学における学び):自己紹介・他己紹介		
2	ノートテイキング		
3	メールや手紙の書き方・出し方		
4	図書館の利用(見学、体験)		
5	Word や PowerPoint の使い方		
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)		
7	情報リテラシーについて		
8	人に伝わる文章を書く①		
9	人に伝わる文章を書く②		
10	レポートの書き方①テーマを見つける		
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる		
12	レポートの書き方③口頭発表を行う		
13	レポートの書き方④口頭発表を行う		
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)		
15	本の紹介②と前期のまとめ		
16	後期授業のガイダンス:第1課題の説明・原稿用紙の使い方		
17	第1課題の合評と講評①		
18	第1課題の合評と講評②		
19	第1課題の合評と講評③		
20	第1課題の合評と講評④		
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する		
22	第2課題の合評と講評①		
23	第2課題の合評と講評②		
24	第2課題の合評と講評③		
25	第2課題の合評と講評④		
26	第3課題の合評と講評①		

27	第3課題の合評と講評②	
28	第3課題の合評と講評③	
29	第3課題の合評と講評④	
30	一年間の授業の振り返り	

科目名	文章表現の基礎	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	出口 逸平				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>(前期)文芸学科1年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。</p> <p>(後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。</p>					
授業概要					
<p>(前期)7クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要なアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。</p> <p>(後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。</p> <p>パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(前期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(前期:最終レポート含む)			30		
平常点(後期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(後期)			15		
最終課題(後期)			15		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「スタディ スキルズ ナビゲーション」				
出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ iキャリア		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス(大学における学び):自己紹介・他己紹介		
2	ノートテイキング		
3	メールや手紙の書き方・出し方		
4	図書館の利用(見学、体験)		
5	Word や PowerPoint の使い方		
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)		
7	情報リテラシーについて		
8	人に伝わる文章を書く①		
9	人に伝わる文章を書く②		
10	レポートの書き方①テーマを見つける		
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる		
12	レポートの書き方③口頭発表を行う		
13	レポートの書き方④口頭発表を行う		
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)		
15	本の紹介②と前期のまとめ		
16	後期授業のガイダンス:第1課題の説明・原稿用紙の使い方		
17	第1課題の合評と講評①		
18	第1課題の合評と講評②		
19	第1課題の合評と講評③		
20	第1課題の合評と講評④		
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する		
22	第2課題の合評と講評①		
23	第2課題の合評と講評②		
24	第2課題の合評と講評③		
25	第2課題の合評と講評④		
26	第3課題の合評と講評①		
27	第3課題の合評と講評②		
28	第3課題の合評と講評③		
29	第3課題の合評と講評④		

科目名	文章表現の基礎	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	小川 光生				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>(前期)文芸学科1年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。</p> <p>(後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。</p> <p>なお、この授業は「1年次に、文章表現や文芸、メディア論の基礎の学修からスタートし、日本および世界各地の文学を幅広く身につけ、一方で創作の準備にもかかる」という、建学の精神を踏まえた文芸学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、特に文章表現の基礎となる技術や知識を学ぶことを目的とするものである。</p>					
授業概要					
<p>対面授業(前期)7クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要なアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。</p> <p>(後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席は避けて欲しい。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(前期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(前期:最終レポート含む)			30		
平常点(後期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(後期)			15		
最終課題(後期)			15		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2023				
出版社名			著者名	大阪芸術大学／ベネッセ iキャリア	
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス(大学における学び):自己紹介・他己紹介		
2	ノートテイキング		
3	メールや手紙の書き方・出し方		
4	図書館の利用(見学、体験)		
5	Word や PowerPoint の使い方		
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)		
7	情報リテラシーについて		
8	人に伝わる文章を書く①		
9	人に伝わる文章を書く②		
10	レポートの書き方①テーマを見つける		
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる		
12	レポートの書き方③口頭発表を行う		
13	レポートの書き方④口頭発表を行う		
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)		
15	本の紹介②と前期のまとめ		
16	後期授業のガイダンス:第1課題の説明・原稿用紙の使い方		
17	第1課題の合評と講評①		
18	第1課題の合評と講評②		
19	第1課題の合評と講評③		
20	第1課題の合評と講評④		
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する		
22	第2課題の合評と講評①		
23	第2課題の合評と講評②		
24	第2課題の合評と講評③		
25	第2課題の合評と講評④		
26	第3課題の合評と講評①		

27	第3課題の合評と講評②	
28	第3課題の合評と講評③	
29	第3課題の合評と講評④	
30	一年間の授業の振り返り	

科目名	文章表現の基礎	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>(前期)文芸学科1年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。</p> <p>(後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。</p> <p>なお、この授業は「1年次に、文章表現や文芸、メディア論の基礎の学修からスタートし、日本および世界各地の文学を幅広く身につけ、一方で創作の準備にもかかる」という、建学の精神を踏まえた文芸学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、特に文章表現の基礎となる技術や知識を学ぶことを目的とするものである。</p>					
授業概要					
<p>(前期)6クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要なアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。</p> <p>(後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(前期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(前期:最終レポート含む)			30		
平常点(後期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(後期)			15		
最終課題(後期)			15		
教科書					
教科書1					
出版社名			著者名		
教科書2					
出版社名			著者名		
教科書3					
出版社名			著者名		
参考書・参考文献					
参考書名1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2026				
出版社名			著者名	大阪芸術大学／ベネッセキャリア	
参考書名2					

出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス(大学における学び):自己紹介・他己紹介		
2	ノートテイキング		
3	メールや手紙の書き方・出し方		
4	図書館の利用(見学、体験)		
5	Word や PowerPoint の使い方		
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)		
7	情報リテラシーについて		
8	人に伝わる文章を書く①		
9	人に伝わる文章を書く②		
10	レポートの書き方①テーマを見つける		
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる		
12	レポートの書き方③口頭発表を行う		
13	レポートの書き方④口頭発表を行う		
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)		
15	本の紹介②と前期のまとめ		
16	後期授業のガイダンス:第1課題の説明・原稿用紙の使い方		
17	第1課題の合評と講評①		
18	第1課題の合評と講評②		
19	第1課題の合評と講評③		
20	第1課題の合評と講評④		
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する		
22	第2課題の合評と講評①		
23	第2課題の合評と講評②		
24	第2課題の合評と講評③		
25	第2課題の合評と講評④		
26	第3課題の合評と講評①		

27	第3課題の合評と講評②	
28	第3課題の合評と講評③	
29	第3課題の合評と講評④	
30	一年間の授業の振り返り	

科目名	文章表現の基礎	年次	1	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	福井 慎二				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>(前期)文芸学科1年次の導入科目として、高校までの学習と大学での勉強の違いを理解し、ノートの取り方やレポートの書き方、情報リテラシーなどを学ぶことで、大学の授業を受ける態勢を整えるための授業である。能動的に学ぶ姿勢を身につけ、大学生活の基盤を築くことを目標とする。</p> <p>(後期)比較的短い創作的文章の執筆を通じて文章表現の基礎を身につける。原稿用紙の使い方など、執筆のための基本ルールを学ぶとともに、合評での発言の作法など、これからの文芸学科での学びに能動的に参加するための姿勢を身につける。</p>					
授業概要					
<p>(前期)6クラス編成で各クラスに担当の専任教員がつく少人数のゼミ形式で、大学での学習や研究に必要なアカデミックスキルを習得する。文献の読み方、図書館やインターネットでの資料検索、レポートの書き方、プレゼンテーションや討論の方法など、文芸学科での学びに必要な手法を身につける。</p> <p>(後期)与えられた短い粗筋に基づいて小説の冒頭部分を創作する、といったいくつかの創作的課題に取り組む。授業はおもに課題作品についての合評・講評のかたちで進行する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題はその都度指定された形式で必ず締切までに提出すること。授業ではペアワークやグループ発表もあるので遅刻・欠席厳禁。合評の際は、授業が始まるまでにクラスメイトの作品を熟読しておくこと。</p> <p>パソコンを使うときなど、合同授業となる場合は教室が変更となるので注意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(前期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(前期:最終レポート含む)			30		
平常点(後期):授業への積極的な参加等			20		
提出物(後期)			15		
最終課題(後期)			15		
教科書					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	スタディ スキルズ ナビゲーション 2025				
出版社名		著者名	大阪芸術大学／ベネッセ iキャリア		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
一部の授業では、パソコン教室を使うときなど合同授業になるので、教室変更に注意すること。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス(大学における学び): 自己紹介・他己紹介		
2	ノートテイキング		
3	メールや手紙の書き方・出し方		
4	図書館の利用(見学、体験)		
5	Word や PowerPoint の使い方		
6	辞書の使い方(英和辞典・国語辞典など)		
7	情報リテラシーについて		
8	人に伝わる文章を書く①		
9	人に伝わる文章を書く②		
10	レポートの書き方①テーマを見つける		
11	レポートの書き方②調査し、考えをまとめる		
12	レポートの書き方③口頭発表を行う		
13	レポートの書き方④口頭発表を行う		
14	本の紹介①(例えばビブリオバトルなど)		
15	本の紹介②と前期のまとめ		
16	後期授業のガイダンス: 第1課題の説明・原稿用紙の使い方		
17	第1課題の合評と講評①		
18	第1課題の合評と講評②		
19	第1課題の合評と講評③		
20	第1課題の合評と講評④		
21	小説の粗筋を学生から募り、第2・第3課題を決定する		
22	第2課題の合評と講評①		
23	第2課題の合評と講評②		
24	第2課題の合評と講評③		
25	第2課題の合評と講評④		
26	第3課題の合評と講評①		
27	第3課題の合評と講評②		
28	第3課題の合評と講評③		
29	第3課題の合評と講評④		

科目名	書道演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2026年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	小林 逸光				
クラス名					
授業目的と到達目標					
中国・日本の書の名品を通して、楷書・行書・草書・かなの技法を学び、その歴史と芸術的表現を学ぶ。特に各体の重要な古典作品を学び技術の習得を図る。さらに文部科学省による中学校指導要領の目的に沿い、書写の実技練習を学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。					
授業概要					
楷書・行書・草書・かなを学習し、各書体の技法の取得を図る。また各書作品の作者や作品の歴史的意義と後世への影響を学習する。 それらを理解した上で中学書写の書き方及び指導方法を理解する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
実習を中心とする科目であるため、書道用具は必ず忘れないようにする。 実習科目であるため受講に際して真摯に実習することが求められる。また書の学習は日頃より各自で練習することが大切である。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業への積極的な参加			30		
毎時授業への提出物			70		
教科書					
教科書1	必要に応じて授業時に資料を配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書・参考文献					
参考書名1	「中学書写一・二・三年」				
出版社名	光村図書出版	著者名			
参考書名2	「書 I (高校)」				
出版社名	光村図書出版	著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
薬師寺東京別院書道講師。薬師寺をはじめとする書道講師の経験を活かして、生徒個人と対面で書道課題の手本を揮毫したり、添削指導をすることにより、技術の習得を指導する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	文房四宝(筆・紙)について：日常の書1(硬筆)
2	文房四宝(墨・硯)について：日常の書2(硬筆)
3	文字の歴史・ひらがな・カタカナ・教科書体を学ぶ(硬筆)
4	楷書とかなで文章を書く(硬筆)
5	楷書を学ぶ1(用筆の基本)
6	楷書を学ぶ2(欧陽詢の楷書)
7	楷書を学ぶ3(虞世南の楷書)
8	楷書を学ぶ4(褚遂良の楷書)
9	楷書を学ぶ5(顔真卿の楷書)
10	楷書を学ぶ6(北魏の楷書1「張猛龍碑」)
11	楷書を学ぶ7(北魏の楷書2「鄭道昭の楷書」)
12	楷書を学ぶ8(写経の書)
13	楷書を学ぶ9(王羲之の楷書)
14	行書を学ぶ1(用筆の基本)
15	行書を学ぶ2(王羲之の行書1)
16	行書を学ぶ3(王羲之の行書2)
17	行書を学ぶ4(米元章の行書)
18	行書を学ぶ5(趙孟頫の行書)
19	行書とかなで文章を書く(硬筆)
20	季節の言葉と書式を学ぶ(硬筆)
21	日本の書を学ぶ1(空海の書)
22	日本の書を学ぶ2(嵯峨天皇の書)
23	日本の書を学ぶ3(橘逸勢の書)
24	日本の書を学ぶ4(平安の三跡の書)
25	かなを学ぶ(かなの基本)
26	草書を学ぶ1(王羲之の草書)
27	草書を学ぶ2(孫過庭の草書)
28	漢字かなまじりの書を学ぶ
29	楷書の作品創作
30	行書・草書の作品創作